

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No. 83号

JOMA新役員挨拶

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
藤沢オリーブチャペル牧師 海外伝道部長

藤村良彦

本年よりJOMA役員の任を拝命いたしました日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団に所属する藤村良彦です。よろしくお願いいたします。

私たちの教団内にある海外伝道部は以下の理念のもと働きが継続しています。一部を抜粋いたします。

『教団の総力をあげ、聖霊の力に満たされつつ、福音を聞いたことのない人々にキリストを伝え、地域教会を建てあげる。海外伝道部は、文化、歴史、地理、経済その他の要因を考慮し、アジア及び南太平洋地域への伝道を当面の優先課題としつつ、最終目標を世界宣教に置く。その実現のために、可能な協力関係の構築、人材の発掘、育成、支援及び諸教会に対する啓発活動に努める。また、変化し続ける世界に適切な対応を図れるように、自己研鑽を怠らない。』

30年前の先人たちが抱いた理念に、どれだけ近づけているのか恥ずかしい限りですが、私にとって、心を常に原点に戻してくれる大切な理念となっています。視野が内向きになり、自分のこと、自分の働きばかりに囚われてしまいやすいのですが、世界に目を向けることの大切さに気付かせてくれます。総力をあげて全世界に福音を届けることを目指して手を携えているJOMA加盟の皆様と共に歩めることを感謝しています。

私が神学校を卒業する直前、開拓伝道のために祈っていた時、どのような教会を目指すのか思いめぐらす時がありました。その時に出した答えは『世界にお仕えすることのできる教会、宣教師を生み出し、支援するために力を合わせることできる群れ』でした。ですから、何のために集まり、祈り、捧げているのか、その意味を時間をかけて語り続けてきました。



そのため、今お仕えしている教会では、どこかへ応援伝道に行くことも、他の国のためにお捧げすることも、また宣教師を派遣することも自分たちにとっての大切な使命だと感じている人たちがたくさんいることに感謝しています。地域教会が存在している理由、それは「地域のためにあるだけでなく、世界に福音を満すために存在している」という視点を持ち続けてきました。

毎年フィリピンと台湾のツアーを主催しています。本年も7月終わりに、若者たちを引率して台北と台湾山地に行ってきました。特に参加した中・高生たちが大きな主のお取り扱いを受けて帰ってきました。豚を目の前で屠り、夕食のBBQとします。死を身近に感じ、生を考える時となります。差別を受けている原住民の方々と共に山地において伝道集会を行い、ステージで輝いている原住民の姿に大きな衝撃を受けていました。中高生たちは「自分が今どんなに恵まれているのかがよくわかった」「将来台湾で勉強してみたい」「自分の足りないところ、欠点と思っていたことが主によって強みとなるんだ」「将来宣教師のお手伝いをしたい」と目を輝かせて証ししてくれました。また宣教師のひたむきな姿に心動かされ、自分自身を見つめなおす機会となったようです。

日本から遣わされる宣教師がもっと必要です。そしてそれは宣教地だけにとどまらず、日本国内にとっても大きな恵みとなっていきます。皆様と世界宣教のために共に働くことができることを感謝しつつ。





世界食料デー大会にて海外スタッフによる講演



西日本豪雨支援(2018.7~9)

国内での活動

世界食料デー大会を全国29ヶ所で開催

世界の飢餓の状況をもっと知ってもらおうと、毎年9月から11月にかけて「世界食料デー大会」を地域教会やボランティアの協力をもって、日本各地で行なっています。2018年は全国29ヶ所で世界食料デー大会を開催し、約1400万円の募金を世界の支援地に送ることができました。

また多くの教会では、国連が定めた世界食料デー(毎年10月16日)を覚えて、その前後の日曜に「世界食料デー礼拝」を持って頂いています。

世界の飢餓問題を知ることで、自分自身の食生活、ライフスタイルを見つめ直し、積極的な社会貢献へと個人、学校、企業を巻き込んでいけるよう、啓発活動に力を入れています。

緊急災害支援

海外でも国内でも、緊急時に支援を!

長期的な飢餓問題を解決するためには、チャイルドサポーターやVOCといった継続的支援が必要ですが、それに加え、緊急災害(地震・洪水・津波など)による被災者への迅速な対応も、ハンガーゼロは心掛けています。最近では2019年3月にアフリカ東部モザンビークを襲った「サイクロン・アイダイ」被災者支援の緊急チャリティコンサート(2019.4.19)を大阪で開催、ホームページ等からの募金と合わせ、モザンビークへ約150万円を送ることができました。

また国内では、2018年7月に発生した西日本水害関連で、岡山・広島など被災地で活動したキリスト者災害支援ネットワークへ、スタッフやボランティアチームを派遣、また支援金(約1800万円)を送りました。



コンゴ民主共和国
駐在 ジェローム・カババ



フィリピン駐在
酒井 保・慶子 夫妻



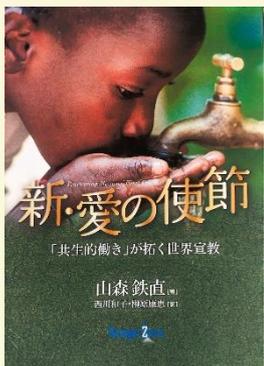
ボリビア多民族国
駐在 小西小百合

日本から派遣中の海外駐在スタッフ



チャリティコンサート開催

教会の伸ばされた腕として ~こころの飢餓・貧困に応える~



山森鉄直 著
「新・愛の使節」

飢餓に苦しむ人々と共に歩み、仕え働くことは、主イエスが福音を伝えつつ、人々を癒し空腹を満たされたその業に倣うものです。ハンガーゼロ創立理事である山森鉄直博士の唱える「共生的任務ニシンピオティック・ミニストリー」に関する本を2019年3月に出版しました。教会の伸ばされた腕として、また超教派で世界宣教の最前線で働く諸団体の皆様とご協力させて頂きながら、これからもハンガーゼロは歩み続けていきたいと願っています。お祈りとご協力をお願いいたします。

活動実績

- ・支援している国 18カ国
- ・支援している人 56,000人
- ・支援している子ども 1,795人
(サポートチャイルド数)
- ・子ども給食支援 1,207食/日
- ・支援コミュニティ 86地区
- ・パートナー団体 60団体以上

※上記は年次報告書(2017.7-2018.6)より

※左記の本のお求めは、ハンガーゼロまでご連絡ください。 general@jifh.org

世界の「先進事例」に学ぶ必要 ～日本が要配慮環境にならない為に～

今年2019年4月のJOMA総会では、要配慮環境での宣教事情についてのご講演をいただきました。

「要配慮環境 ※1」とは、信教の自由やキリスト教宣教そのものが認められていない地域において、宣教師と名乗ることすら困難で、お名前や活動内容、家族構成についてなどに言及する事にも配慮が必要な環境という意味です。JOMA総会の時でも、講師の先生のお名前を明かすことができませんでした。

そのような中、本当に生々しい現地の様子を語っていただきました。街角のあちこちに増えた監視カメラ。街じゅうにいる警官からいつでもIDの提示を求められる状況。スマートフォンには、国が配布する監視アプリの導入が義務付けられ、任意に呼び止められてチェックされる。教会どころか、一般の家庭での集会もままならない日々。基本的人権として信教の自由が保証されている日本からみると、「なんと野蛮な」とも思う方もいるかもしれません。

しかし、日本の今の状況を見ると、むしろその国は、日本がこれから進んでいく状況を先に示してくれている「先進事例」なのかとも思えてしまいます。JOMA主事として出席させていただいたJEA(日本福音同盟)の総会では、基本的人権と改憲草案についての学びがありました。現憲法では97条に「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたもの」と書いてあること、そして改憲草案ではこの条項を完全に削除しようとしていることを教えていただきました。削除をする理由の一つとして、基本的人権は天賦人権、すなわち、ヨーロッパの市民革命の根底にある「キリスト教の神様」から与えられた人権なのだから、神道の国である日本には不要だという考え方があるとも聞きました。その意味で、「日本の完全なる自主憲法」のためには、「国民主権・基本的人権・平和主義」を、憲法から無くす必要があるのだ、とも。

日本にいと、改憲議論は憲法9条がメインのように感じますが、その裏側では本当の神様が与えてくださった私たちの本当の権利を、無くしてしまおうという動きはないでしょうか。キリスト教の神様による天賦の人権ではなく、もし政府が与える人権…となったら、第2次大戦の時のような、政府に沿った意向に生きるものだけに付与される人権になってしまうかもしれません。これは日本も要配慮環境になっていく可能性を示唆しているように思えます。そうなってしまわないために、すでに要配慮環境になってしまった「先進事例」に学び、日本にその実情を紹介することもJOMAの使命の一つに思えます。

今は恵みの時、救いの日です。協力し、祈り、何とかして世界や日本に伝えて行かなければならない、急務感を感じています。そのような意味においても、JOMAの働きの、互いに宣教の為に情報を互いに連絡しあえることの意味、知恵と配慮をもって聖霊によって宣教をしようという大切さを感じております。

(※1:「要配慮環境」については、JOMA通信81号の松崎ひかり専門委員(当時)による巻頭言に詳しい)

「彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る。」ゼカリヤ書9:10

2019年9月 JOMA事務局 主事 大間 哲

JOMA正会員(加盟団体)募集と 協力会員(個人)のご参加のお願い

本年は、ハンガーゼロが新規加盟して下さり感謝です。引き続き加盟団体を募集いたします。世界宣教をおこなっている宣教団体、教派団体が、共に主に在る戦いを勝ち取るために、より強固なネットワークを構築が希まれます。もし未加入の団体をご存じの場合は、積極的な入会をお誘い下さい。

また、さらに充実したネットワークの構築のため、JOMA規約第5条に基づき、協力会員(個人:年会費12,000円)も募集しております。すでに、何名かの方からご参加のお申し出を頂戴しており、感謝です。皆様ご自身、また、周囲の方で、世界宣教に重荷を持つ個人の方の積極的な入会をお誘い申し上げます。入会をご検討の方は、JOMA事務局まで、お問い合わせ下さい。(e-Mail: office@joma.jp)

(参考)JOMA規約 第5条の2: 協力会員とは、個人において世界宣教に重荷を持ち、JOMAの活動に協力及び支援をする者とする。総会にはオブザーバーとして参加し、議決権、選挙権および被選挙権を持たないものとする。

今後も引き続き、お祈りをお願いいたします。

お祈りください・・・

- ◆ **日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団**
 - * 派遣されている宣教師(台湾:丸山宣教師 フィリピン:山城宣教師)の働きの祝福。
 - * モスリム伝道のために派遣されている1組の宣教師家族の働きの祝福。
 - * 1家族がビザ取得のため国内待機しています。速やかにビザが取得できますように。
 - * 5年以内にあと2組の宣教師を派遣することができますように。

- ◆ **日本イエス・キリスト教団**
 - * 1組2名の宣教師の働きが用いられ、宣教の働きが前進しますように。
 - * 1組2名の宣教師が現地での働きを終えて帰国。今後の働きと結実のために。
 - * 1組2名の宣教師候補(台湾)がよき準備をなすことができますように。
 - * 世界宣教への祈りが強められますように。

- ◆ **日本ウイクリフ聖書翻訳協会**
 - * 日本ウイクリフでは、来年にかけて宣教地体験旅行をはじめとした各種プログラムを計画しています。聖書翻訳宣教に関心を持つ方々がこれらのプログラムに参加し、神様からのチャレンジと励ましを受けられることができるように。
 - * 各地で奉仕している宣教師と家族の健康と安全が守られ、主のみことばを伝える働き(聖書翻訳・識字教育・エスノアーツ等)が力強く進められるように。
 - * ビジョン2025(聖書翻訳が必要とされる全ての言語において、2025年までにプロジェクトをスタートさせる)に日本の教会がさらに応えることができるように。お祈りを心より感謝いたします。

- ◆ **日本バプテスト教会連合**
 - * タイのスポーツミニストリーに派遣されている、福間庸平宣教師の働きが実りあるものとなりますように。
 - * ネパール・バクタプルでの教会開拓伝道に派遣される、カルマチャリア・リチェン&ベリーナ宣教師候補の諸準備が祝福されますように。

【12/5(木) 18:30~】第2弾 JOMA 宣教 ネットライブ・コンサートのお知らせ

JOMAでは、昨年に引き続き、世界の宣教地に向けて讚美を送りとどける、ネット中継付きコンサートを行います。出演は、昨年に引き続き、ソプラノの坂井田真実子 姉。一度下半身不随になるという病を得ながら、その病は神様のプレゼントとして感謝し、神様の奇跡によってステージに復活された方です。そして、今年は、バリトンの古澤利人 兄もお迎えします。古澤兄は、声楽家であると同時に、指導、指揮、作曲、翻訳、演出やミュージカルまで多彩にこなす方です。そして、そのオペラの演出の考え方は、「赦し」と「回復」であるといいます。その古澤兄は、坂井田姉の病床を見舞い、必ず舞台に復帰していっしょに仕事をしよう、と励ましてこられたそうです。そんな奇跡のソプラノと、愛と赦しのバリトンによる、クリスマス DUO コンサート。是非足をお運びください！

開催日時: 2019年12月5日(木) 18:30-21:00

主会場: お茶の水クリスチャンセンター(OCC) 8階 チャペル

参加登録(任意)・ネット視聴の情報 は、JOMA ホームページ、Facebookページより



ソプラノ:
Mamiko Sakaida
坂井田真実子



バリトン:
Rihito Furusawa
古澤利人



ピアノ:
Rina Ishii
石井里乃

このコンサートは、昨年同様、海外の宣教地各地にネット中継をして歌声を届けると同時に、中間に「JOMA(宣教地)タイム」を設け、ネット会議システムを介して現地2~3か所からの声を主会場で聞き、歌の感想や現地の生の声を、主会場の観客にも伝えられるような、双方向のネットライブ・コンサートです。

OMF 日本委員会 総主事就任式 →
2019年9月2日(月) 19:00 OCC チャペル
(開催日が直近ですので、ご注意ください)

**日本ウィクリフ聖書翻訳協会
今後の宣教関係イベントのお知らせ**

- ① 異文化宣教セミナー
2019年9月4日(水)ー7日(土) 軽井沢KFBC
- ② パプアニューギニア宣教地研修旅行
10月22日(火)ー11月4日(月)
(今回の申し込みは締め切りました)
- ③ フィリピン宣教地体験旅行
2020年3月12日(木)ー26日(木)
- ④ Camp Wycliffe in Thailand
2020年5月(4泊5日) 場所: タイ・チェンマイ

プログラムに関するお問い合わせ先:
日本ウィクリフ Eメール: info@wycliffejapan.org

OMF日本委員会 総主事 就任式

かみ せんきょう よるこ
神の宣教の喜びにいきる

「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であながたを満ちし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。」 ローマ15:13

2019年 9月2日(月) 19:00~20:30 (開場 18:30)
会場: お茶の水クリスチャン・センター8階チャペル
プログラム: 総主事就任式(礼拝形式)〜証し、メッセージあり〜

1992年より OMF 宣教師として13年間フィリピンで働く。OMF日本委員会主事を辞めて、2012年より OMF 国際センター(シンガポール)にて、OMF 派遣事務所のない国からの宣教師/候補者と宣教師たちの人事の責任を負う。2019年4月より OMF 日本委員会総主事。

OMF 総主事: **佐味 湖幸**

OMF 総裁: **パトリック・フン**

1989年より7年間聖徳宣教師としてパキスタンで活動。その後香港 OMF 総主事、シンガポール国際本部で宣教師派遣区局長を歴任。2006年2月に第10代 OMF 総裁に就任、現在に至る。妻ジェニー節との間に2人のお子さんがいる。

どなたでも自由にご出席ください。

主催: OMF 国際センター日本委員会
〒272-0035 市川市新田 1-16-14
Tel: 047-324-3286 e-mail: hc@omf.or.jp
HP: https://omf.org/jp/



世界の宣教地の声をライブに繋ぐ
JOMA 宣教セミナー

世界の宣教地をネット中継で結び、各地のリアルな声を聞いて学び・考えます。
宣教に関心がある方なら、どなたでもご参加下さい。

2019年 9月30日(月)
19:00~ (18:30 開場)
於: 中央聖書神学校 チャペル

参加申込は、JOMA ホームページ・Facebook
ホームページ: <http://www.joma.jp/>
Facebookページ: <http://fb.me/JOMA.Office>

プログラム:
19:00 開会
・第1部 パネル
宣教師より、ネット経由でリアルな宣教活動報告と祈祷課題の共有
・第2部 質問・フリートーク
会場からの質問も受けつつ、挙げられた課題も含め、地域や教団・団体を超えて、祈りの輪を広げる
20:40頃 閉会

(※ 参加申し込みは必須ではありませんが、事前人数把握にご協力
いただけたら幸いです。) 入場無料(席上献金あり)

日本アッセンブリー・オブ・ゴッド教団
会場 中央聖書神学校 チャペル
〒170-0003 豊島区駒込3-15-20 (駒込駅 北へ歩7分)

◆編集後記◆

今号は、新役員の新藤村先生による巻頭言に加え、新規加盟団体のハンガーゼロの活動紹介があり、とてもフレッシュです。ただ、1か月発行を早めたので、夏の出入りの多い時期に、先生方に原稿を頂戴したり、確認をしていただきました。短い日程のご依頼で、ご迷惑をおかけしました。秋には、JOMA宣教セミナー、そして、JOMA宣教讃美コンサートと続きます。皆さまお祈りください。

